

成果報告書

1. 主 題「APEC 女性と経済フォーラム及びリオ+20 について聞く会」
2. 主 催：内閣府男女共同参画局
3. 会 場：日本学術会議 講堂
4. 日 時：平成24年8月6日（月） 午前10時30分から12時30分
5. 参加者・参加人数：150名ぐらい入る会場に60名ぐらい

6. 内 容：

第1部「APEC 女性と経済フォーラムについて」

(1) アキレス 美知子氏（株式会社資生堂執行役員）

意識改革、風土改革を進めたS1、働く親のために制度・システムを整える（多くの女性は子どもができたら仕事をやめる）、S2 働き方の見直し（かろうじて仕事と家庭を両立している）。S3 人的資源の投入（優秀な女性が採用され、生き生きしていくことが大切）
投資：Money（若手研究者を10名一人100万ずつ）、Time（ワーク・ライフ・バランス施策）、
Education（社員教育）

(2) 佐々木 かをり氏（株式会社イー・ウーマン代表取締役社長）

1970年に創立した。目的「ITと女性」

多様性（ダイバーシティ）インターネットのますのほうは学生と主婦が利用しており、最前線で働く人の声は反映されていない。この25年間ワークライフバランスと賃金格差について語られてきたが一人ひとりの力を蓄え、貢献するという表現がいい。また、ITは世界中の人と結べる。

(3) 笠 章子氏（大塚製薬株式会社常務執行役員広報部長）

・頭のとっぺんからつま先までをケアするトータルヘルスカンパニーである。

「優良人材」女性に優秀な人材を乱した、「イノベーション」技術的革新だけでなく、ものづくり、販売、マーケットなどのプロセスにも革新が必要、「3.5倍」過去20年での成長で日本で2番目に大きな製薬会社となった、「女性は変革の牽引力」（継続的な成長のために女性の力をさらに取り入れる

第2部「リオ+20（環境と女性）について」

織田 由紀子氏（リオ+20 国内準備委員会委員）

2012年6月20・22日、リオデジャネイロで開催

主要テーマ①持続可能な開発及び貧困根絶の文若煮おけるグリーン経済

②持続可能な開発のための制度的枠組み

女性たちが望む未来

女性は持続可能な開発の3本柱の要であることに光をあてられるべき。女性の決定への参画、女性への投資は権利の問題でだけでなく古典的な経済の枠組みでも経済的な意味がある。4つの優先順位①完全に平等で意味ある参加、②GDPを超えた新しい経済、③性と生殖をも含む健康と権利、④貧困克服

2) 男女共同参画をめぐる最近の主な動きについて

①ジェンダー平等と女性のエンパワーメント

- ・持続可能な開発における女性の役割とリーダーシップの重要性
- ・女性の決定参加と管理的地位、指導的地位にある女性を増やし、目標値を設定する
- ・女性の潜在能力開花の障害を除去するための差別的法制度の改革
- ・経済的資源への平等なアクセス
- ・教育、経済的機会、ヘルスサービスへの平等なアクセス
- ・持続可能な開発のすべての側面におけるジェンダー平等と女性の参画の重要性
- ・決定への女性の参画とジェンダー主流化の推進

7. 感想：

参加者の少なさは残念に思う。期日が過ぎると受け付けないルール優先で遅く申し込んだ方は断られたという人もいる。会場は半円形になっており、どこの位置からも報告者はみやすいつくりになっていた。

最初に男女共同参画担当大臣中川正春氏の挨拶があり、パネリストがそれぞれ発表した。特に印象に残ったのは女性が起業した株式会社イー・ウーマンのIT産業への参画で、男性とは違う視点で起業を捉えていると感じた。生活の延長として仕事もあるという考え方はないかと思った。